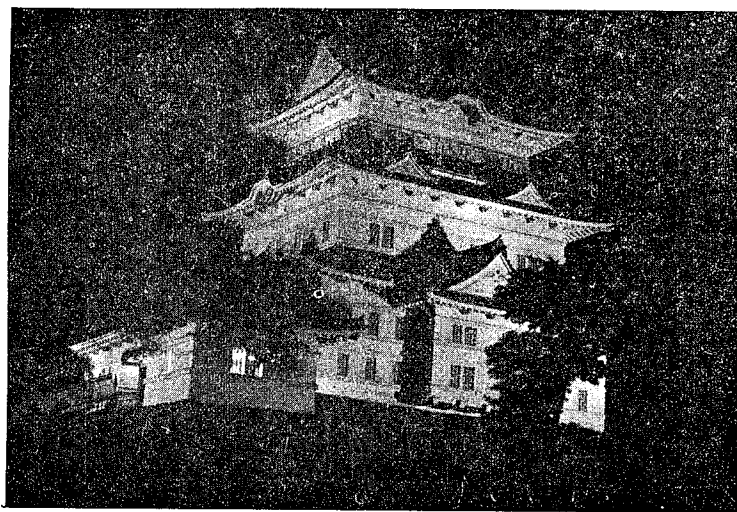


# 小田原史談

第38号 談会  
小田原史目  
所 小田原市丁  
小田原市文  
郷 小田原郷 館内

印刷の御用は  
清水印刷  
小田原市幸一ノ一七  
電話小田原三四七七番



暗夜にクツキリと白く浮び出る小田原城天守閣

## 昭和新城の運命と

### 小田原城

熱海城が競売になると、新聞は伝えている。ここ数年  
来お城とタワーは観光地の象徴のように、練々出現し  
た。猛烈な反対をうけた京都タワーも落成したようであ  
る。だが熱海城競売のニュースは、観光といえばお城や  
タワーをつくらせてきた観光業者たちのいい葉になり、こ  
うしたブームの終点近いことを思わせるものである。

熱海城は、昭和新城と呼ばれる鉄筋コンクリート造城  
郭の初期に属するものである。昔ここに城があったわけ  
でもなく、ただまことしやがに建てられているだけのも  
のだ。こうした歴史不在の新城は、もちろんのこと、古い  
城跡に建てられた新城にしても、その形を復元しうるよ  
うな史料のあったものはきわめて少ない。伏見城もその  
例で、屏風絵が何かをたよりに、現代人が創作したもの  
である。

ところで、熱海のように低俗な団体客が集まり、はじ  
めから観光的に錦ヶ浦という場所を選んで建てた熱海城  
も、落城競売になるのである。まして、交通不便な城跡  
に建てられた新城は、おそらくもって経営が苦しむので  
はなからるか、新聞沙汰にこそならないが、持ち主がか  
わり、落城をまじかにしながらも、食わねど高揚枝とこ  
らえている昭和新武士も多いのだろう。(「芸術生活」  
神代雄一郎説)

以上の説に、私も共鳴を感じる。同時に、わが小田原

城の如き、営業本位を目的とするものと、同一に論ずる  
ことはできない。興亡何百年かの有名な歴史を有し、か  
つ幸いにも原形の模様が残り、これによって復元したも  
のとは比較にならぬ歴史を物語る意義の深さがあるが、  
単に観光本位に営業を目的としたものに、なんらの意  
義もなく、これに何億円という巨費を投じて、建設され  
る新城は、万里の長城と同じく、厄介ものとして残るか  
あるいは蜘蛛巣城となって終るのがオチではないのだら  
うか。  
(斐田)

## 年末に際して

昭和三十九年も将に暮れんとしています。本年は辰歳  
として活躍を期して迎えました。来る巳の歳は何を目  
標として進むべきかを考えてみたい。巳は蛇で、蛇は縁  
起のよいものとされていますが、あまり感じのよいもの  
ではありません。ときに蛇の脱け殻らというものを樹木の  
枝や草原で発見しますが、ぬげがらは成長するための脱  
皮で、古い着物を脱いで、新しく衣替えることです。  
それで思うことはわが史談会も新しく衣替える年で  
はないかと考えさせられます。

来年は史談会創立十年に当たります。過去において史蹟  
の調査、文化財の陳列展覧、古蹟見学、機関誌発行等活  
躍をつづけ、相当の功績をあげて来ましたが、われわれ  
はこれに満足すべきでなく、内容の充実を計るとも  
に、生れ替る覚悟が必要ではないでしょうか。同時に創  
立十年を記念すべき何等かの計画を計りたいものです  
が、これに関して各位のご考慮を煩わしいと思いま  
す。(斐田)

訂正 前号十二月十五日発行とあるは  
十一月十五日発行の誤植に付 訂正



# 二宮尊徳の真髓

(巧妙な自由主義と)

社会主義との並行家)

太田 康平

二宮尊徳が小田原の生んだ最大の偉人であることに誰れも異存のないことであらう。

然るに小田原市内の報徳会が振わず、又全国的に北海道下野の東部、遠州、御殿場、三河の北部その他草深い田舎で報徳会や報徳団体が栄えているにも拘らず、都会地では殆ど振わない。これにはいろいろの理由があることと思われるが、私は尊徳の称え出した報徳がとかく労働を重視し、儉約を奨励する、ジメジメした古い貧乏臭いものであるとの誤解から生じたものと思っている。又小学校や中学校の庭に、薪を背負い乍ら本を洗んでいる尊徳の像をよく見受けるがこれも普通の人の人をして報徳を貧乏人の教えと誤解させる大きな理由である。

そこで私は尊徳が本来陽性活潑の人物で、酒が好きで品行も必ずしも方正謹直ではなかった男であり、し

あり、決してジメジメした道学先生ではなかった。しかし尊徳は金儲けで満足する様な、ありふれた平凡の男ではなく又学者肌でもなく、社会更生に興味を持っておりその方に強く進んで行った。

小田原の服部家政復旧桜町復興等の更生事業で有名になったことはよく知られている通りである。尊徳の更生事業に対する方針は、原則として自力本位であり、そのため

に勤勞を盛に主張したが、それは勤勞による自力経営が、結局自分や社会に對して利益だと考えたからであり、只わけもなく我慾のために「働け働け」と云ったのではなかった。

つまり原則としては自由経済論者であり、只自由経済によって儲けた財力を人のために使い、人に施せと称えた点において社会主義者でもあったのである。

下野桜町の復旧が大成功して、全国的に有名となったが、その方法は従来藩主が何度も補助金を

出しても失敗していたのを、尊徳は補助金を辞退し、農民の自力更生を称へその代りに年貢を半分にまけさせた。補助金は一時であり、年貢の減額は永久であるしかも復旧しなければ領主は年貢が入らない。

結局年貢の減額による復旧は藩主、農民双方の利益になることであり、そこに眼を付けて成功したのは尊徳の並ならぬ後敏の頭脳によるものであり、ここにおいても自由主義と社会主義とを巧妙に採り入れていた。

尊徳は節約を称へ無駄を糺正することを主張したが、決して地味でケチケチした男ではなく、必要な経費は惜しまなかった。

青年の農民時代に自家再興で多忙な折に当時の農家には珍らしく、関西至る所を自費で旅行し、江戸にも度々出掛けていた見聞を弘める為である。

又桜町で更生事業を行う際に、農民を集めて集会を催した折には、いつも酒を酌み合せてユックリと懇談した。

これは尊徳が酒好きの故もあつたらうが、農民に對して酒を飲み乍らユックリと気分を落付かせて話をまとめ様としたからであり、何事にも必要な経費は積極的に支出した。

尊徳は報徳を称えたが、學者ではなく経世家であり、経済発展による国家社会更生を念願とした実政治家であつた。

若年時代に本家万兵エの家で夜遅くまで読書したことはよく知られているが、これは一癖の修学科程に過ぎず、成人してからは、書物や学問に促われなかつた。支那学も孔孟の教程度しか知らず、その称える報徳も理論的には矛盾した所があり、空論を嫌ひ、實際のことに重点を置いて計画を立て、意見や所論を発表した。

只自信が強いから云うことと論ずることが説教めいており、そのため一面道学者の様に誤解され、學者の様に思われていたが、所論や書き残したものは、まとまっておらず

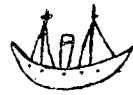
いわゆる尊徳の教えは、弟子達がまとめたものである。

尊徳は勤勞に重点を置き、節約を奨励したがケチン坊によつて金満家になることを考えず、剩った財力は世間のために使うことを称えた。これがいわゆる報徳であり、徳とは社会であり、世間であつて、欧米に見る社会還元思想を強く持っている、その実現宣伝に最も努力しており、その意味で可成りの社会主義者であつた。

アメリカやドイツ等では実業家が一生懸命に働いて、残した金の大部分を学校や社会事業に寄附するが(彼等は事業の成功は自分の力丈ではなく、社会が相手にして呉れたからである)と云う考えを持っており、従つて社会に還元しなければならぬ)と云う思想が普及している。尊徳はこの欧米の思想を知らなかつたが、これによく似た考えを持っており、とかく家本位の東洋思想が強くて、財産は子孫丈に譲ると云う個人主義的の方が私財処

用は、個人主義的の方が私財処

分方法に対して頗る独特の思想を持っており、この点において独創的、天才的頭脳の持主であつてこの思想が当時盛の儒教本位の人生論、所世観に對して頗る珍らしく、そのため天下に有名になつたのである。こう云う報徳の特長があるので戦后進駐軍関係で大勢のア



【以下次号】

メリカ人が来た折に、報徳思想に興味を持った者が多く、大分研究した人があつた。

# 鉄道記念物(七)

額田喜代春

(前号のつづき)  
 新宿駅などは明治二〇年頃でも、線路や構内にキツネが出没して鉄道職員をおびやかしたものだそうである。  
 日本鉄道KKは明治十四年に主として、華族が集つて設立した私設鉄道で、開業は明治十六年で上野から熊ヶ谷まで開通して、明治十七年六月二十五日には、明治天皇が上野―高崎間の開業式に臨まれ、高崎まで往復御乗車されたが、その模様はいま錦絵に残っております。

四年(一八九一年)には、上野から青森まで全通する大会社となり、その営業成績もすこぶる良く、その影響でその後の私鉄ブームが巻き起こつたといわれるくらい功績があつたのである。このように大会社で業務成績もよかつたので、善光寺が購入された前後には、日鉄社員は大変気位が高く、紋付羽織はかまで、執務する者が多く、上野駅のボイラをつかた新入社員が、フロアコートに着て、三日間もヤードにたつて仕事をしたという珍らしい話が今に伝えられている。

(次号は昭憲皇太后の御召車として活躍したり五号御料車に搭載の予定)

## 義士の討入りに

ついで

C・M 生

いくたび書いてもきき飽きのしない、いくたび観ても飽きのないのは赤穂義士伝であろう。ところ俗説がどこまで真か疑わしいことが多い。これもその一つ。夜討ちのおり大石良雄が山鹿流の陣太鼓を打ち鳴らし、吉良邸の表門裏門を縫にて打ち破り攻め入つたというのは、全く文の飾り、事実は四十七人邸内へ忍び入り、かねて定めた人数をそれぞれ分けて斬り込んだのである。義士伝に言うように、初めから東西の門を打ち破つたとすればいかに寝坊な吉良の家来どもも眼をさまし、それぞれ用心をし、或は逃げ散つただけでなく、ひそかに吉良を逃がす余裕もあり、四隣

四十七人が邸中に忍び入り内から門戸を閉ざして人数を配置したことは、良雄入手の手の図面を見ても察知できるのである。  
 浅野の家臣から四十余人の義士を出したことは、長矩公が名君で臣下の心服したことを物語るものである。また仇討ちまでの永い月日が秘せられていたことは、義を重んずる武士の固い誓いを守つたため、現代人の思い及ばぬことであろう。

## 義士打入り会

毎年十二月十四日を期し小田原駅前ソバ屋寿庵階上において、広沢十五夜氏などが主催で義士打入り会が行なわれる。本年はその五回目に当り、私も招ばれて始めて出席した。夕刻七時開催、広沢氏の挨拶に次いで討入当時の状況を語り直ちに開宴、十五夜氏の新作都々逸を三味線に合せうたい満座のカッサイを博し、一座打ち解けてなごやかに時を移し、義士討入りにゆかりのソバを食べ、九時頃散会した。当日の来会者は四十余名いずれも五十才以上の老人であつた。一言希望を述べたならば、来年より自己紹介に各自の感想をも述べるとしたら一層意欲深いものになるのではないかと思う。当夜の十五夜氏のうたった都々逸を左に披露する。(M)

第五回 討入会都々逸  
 吉良邸に  
 松の廊下に残す花  
 田村の庭に  
 いかにとやせんこの無念  
 真夜に灯した大行灯  
 眼はふさがれて  
 こころ燃えたつ内威助  
 米屋八百屋と  
 身はやつしても  
 まことは忠義計り荒  
 その名高輪泉岳寺とて  
 千載消えやらぬ雪の朝

## 文苑

十一月十五日神奈川県文化財協会の鎌倉見学に参加して 清水専吉郎  
 秋陽さす大船駅の観音像  
 なくさめらるる鉄道の客  
 晴れ青せる鎌倉娘  
 数珠を手に  
 いづこへ行くか小町通りに

青飾りて鎌倉八幡宮語り  
 七五三祝ひの親子はれやか  
 白旗宮みちに落檜葉  
 焚くけむり  
 頼朝実朝命とむらぶ  
 鶴が岡八幡宮の脊の山に  
 二十五坊の跡たづね入る  
 八幡宮東山奥の原始林  
 斧おしむなり東慶寺僧  
 平安につづく鎌倉谷戸の山  
 切り崩されむ  
 いましさをえむ  
 鶴が岡裏山に見る  
 谷戸のかず  
 建長寺山境に行ちて  
 鹿子といふ肌班ら  
 木の珍らしく  
 二十五坊の谷戸の山なか  
 自然ばえ鎌倉幕府  
 そのままを  
 削るにおしき谷戸の山々  
 浜江ぬし京奈良ほとけ  
 鎌倉の  
 国宝館にけじめあかしぬ  
 武家の禅鎌倉仏の  
 おもむきを  
 ここに來て知る  
 幕府しのびつ  
 運弁の脈々として仏師いま  
 鎌倉彫は器具を美化しつ  
 禪寺の松杉の色秋映えて  
 鎌倉幕府興亡のあと  
 木静かに寺々めぐり  
 にわかにも  
 賑はふ辻や鎌倉の秋

<p><b>小田原信用金庫</b></p> <p>小田原市幸1の179 (電話(0465)23121)</p> <p>理事長 鈴木十郎</p> <p>十字町支店 (電話25121代)        緑町支店 (電話25124代)        湯本町支店 (電話箱根(5)5518-9)        国府津支店 (電話(4)2191-2)        鴨宮支店 (電話(4)2138代)</p>	<p>日本交通公社協定</p> <p>旧本陣 <b>古清水旅館</b></p> <p>小田原市幸町老丁目・宮の前</p> <p>電話 { 2 0 3 3 6                  2 2 1 6</p>
---	---

<p>御料理 仕出し 御弁当</p> <p><b>東華軒</b></p> <p>代表取締役 飯沼相三郎</p> <p>小田原駅前 TEL (0465) 5061~2</p>	<p>楽しい生活</p> <p>明るい読書</p> <p><b>八小堂</b></p> <p>小田原駅前 TEL 5338~9</p>	<p>神奈川県建設協会 小田原支部</p> <p>小田原市網一色373 電話(0465)20084 4288 4289</p>	<p>小田原駅前</p> <p><b>あさひ</b></p> <p>食堂</p>
--	---	---	--

<p>あなたの暮しのムードをつくる 婦人・子供の店</p> <p><b>小田原</b> メリヤス</p> <p>小田原市錦通り 3837 TEL (0465) 3864</p>	<p>建築金物 家庭金物</p> <p>株式会社 <b>星崎仲吉商店</b></p> <p>小田原市多古412番地 電話 2718</p>	<p>酒・ビール・食料品</p> <p><b>今井重雄商店</b></p> <p>小田原市幸三 電話2234~5</p>	<p>写真</p> <p><b>イガラシ</b></p> <p>小田原市幸3 TEL 2534番</p>
--	---	--	--

<p><b>きそば</b> <b>寿庵</b></p> <p>小田原駅前 電話二八六二番</p>	<p>あなたの洋品店</p> <p><b>はふや</b></p> <p>小田原幸町 TEL 2307</p>	<p>家庭電化で明るい暮らしを</p> <p>(有) <b>岡田電器</b></p> <p>小田原市十字1の22 電話 2613, 5308</p>	<p>有限会社 <b>あめあるよ</b></p> <p>代表取締役 川口 浩</p> <p>小田原市曾我谷津616番地 電話 (0465)(4)3808番</p>
--	--	--	---

<p>印刷の御用命は</p> <p>有限会社 <b>鶴井印刷所</b></p> <p>小田原市緑三ノ二七二 電話 2421~7</p>	<p>料理割烹</p> <p><b>だるま</b></p> <p>小田原市幸1~10 TEL 4128</p>	<p>セトモノの御用は (陶磁器・陶管・植木鉢)</p> <p>有限会社 <b>大川商店</b></p> <p>TEL 8513・3055</p>	<p>浄化槽の清掃修理</p> <p>小田原市緑1の47</p> <p><b>小田原衛生株式会社</b></p> <p>電話 25861・2468番 取締役社長 鈴木 浩</p>
---	---	---	---

<p>電気工事一式・設計・請負 販売修理</p> <p><b>兵藤電気商会</b></p> <p>小田原市下曾我駅前 電話国府津(4)3578番</p>	<p>建築用材一式 (建築御用命一切承ります)</p> <p><b>稲葉材木店</b></p> <p>小田原市十字1~23 電話25621 新玉3~751 電話26884</p>	<p><b>杉山康輔会計事務所</b></p> <p>小田原市新玉2~276 電話 25722</p>	<p>☆丁寧迅速の</p> <p><b>清水印刷株式会社</b></p> <p>小田原市幸1ノ17 電話 23477番</p>
--	---	---	---